

市町村名	豊見城市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	豊見城市観光施設環境美化強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-(ア)		
担当部課名	経済建設部 道路課・公園緑地課	事業実施(予定)年度	令和4～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	豊見城市内の観光施設の環境美化強化による魅力的な景観形成を目的として、広場等の環境美化作業(清掃・剪定・植栽等)を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,405	22,860	27,326		
		(b)予算現額	10,405	22,860	27,041		
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲285		
		(d)繰越額	0	0	0		
		A.計(b+d)	10,405	22,860	27,041		
	B.執行済額		10,052	21,760	26,148		
	うち交付金充当額		8,042	17,407	20,918		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		96.6%	95.2%	96.7%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	豊見城市内の観光施設の環境美化実施	目標	(清掃・剪定・植栽等)実施	(清掃・剪定・植栽等)実施	(清掃・剪定・植栽等)実施	()	
		実績	(清掃・剪定・植栽等)実施	(清掃・剪定・植栽等)実施	(清掃・剪定・植栽等)実施		
	豊見城市内の周辺道路の環境美化実施	目標	()	()	(実施)	()	
		実績			実施		
達成状況説明	・豊見城市観光施設環境整備業務委託として、瀬長島及び豊見城城址の広場等の清掃・剪定・植栽等を行った。 ・瀬長島サンセットパーク第4駐車場法面除草伐採業務委託、豊見城城址遊歩道除草業務委託、瀬長島サンセットパーク第4駐車場法面除草伐採業務委託(R6-2)を行った。 ・市道13路線の除草清掃を年2回行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	施設利用者へのアンケート調査等を実施し、観光施設としてふさわしい景観形成と感ずるか(80%以上)を含め、アンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		84%	81%	82%	
	進捗状況説明	施設利用者に対し、観光施設としてふさわしい景観形成を感じるか(80%以上)を含め、アンケート調査(満足度)を行い、観光地としてふさわしい景観(植栽管理・清掃等)となっていると感じるとの回答が82%となり、成果目標を上回った。 また、豊見城市の主要観光地である瀬長島、豊見城城址(沖縄空手会館)、豊崎地区について、施設利用者へアンケート調査を実施し、55名からの回答を集計した結果、82%が「魅力的な観光地の景観である」と回答し、目標値である80%を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・来島者の増加による観光地環境の変化に注視が必要。 ・委託先の人材不足等により翌年度以降受注できない可能性がある。	・除草・草抜・剪定処理量やゴミ処理量の推移、最適な清掃回数等の内容を検討しながら、継続的な環境美化作業を行っていく。 ・委託先、委託回数など事業執行のうえで最適な方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・来島者の増加による観光地環境の変化に注視し、美化活動箇所・内容を検討しながら、継続的な環境美化作業を行っていく。		

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費			交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
26,148	26,148	20,918	5,230	0

```

graph LR
    A[豊見城市  
26,148千円] --> B[委託料  
26,148千円]
    B --> C["(公社)豊見城市シルバー人材センター  
20,786千円"]
    B --> D["TTP管理共同企業体 公民連携沖縄(株)  
208千円"]
    B --> E["(公社)豊見城市シルバー人材センター  
148千円"]
    B --> F["(有)那覇造園土木  
396千円"]
    B --> G["(公社)豊見城市シルバー人材センター  
4,610千円"]
    C --- H[豊見城市環境施設環境整備業務委託]
    D --- I[瀬長島サンセットパーク第4駐車場法面除草伐採業務委託]
    E --- J[豊見城城址遊歩道除草業務委託]
    F --- K[瀬長島サンセットパーク第4駐車場法面除草伐採業務委託(R6-2)]
    G --- L[環境美化強化委託業務【市道の除草及び剪定】]
  
```

The flowchart illustrates the distribution of 26,148 thousand yen from Toyooka City to five contractors. The total amount is split into 20,786 thousand yen for Silver Human Resource Center, 208 thousand yen for TTP Management Joint Enterprise, 148 thousand yen for Silver Human Resource Center, 396 thousand yen for Naha Zoenkoku, and 4,610 thousand yen for Silver Human Resource Center. Each contractor is linked to specific environmental maintenance tasks such as facility environment improvement, parking lot grass removal, city site path grass removal, parking lot grass removal, and city road grass removal and pruning.

市町村名	豊見城市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	文化観光創出事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-(ウ)	
担当部課名	経済建設部 公園緑地課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和10年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	平成25年度に策定した「豊見城城址跡地利用基本計画」を踏まえ、豊見城城址及びその周辺を観光資源として活用するため、必要な施設等の設計や整備等を実施する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和7年度)						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R3年度(繰越)	R4年度	R5年度	R5年度(繰越)	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額			93,247		145,728
		(b) 予算現額			93,247		143,728
		(c) 増減額(b-a)	0		0	0	▲ 2,000
		(d) 繰越額	1,130,092		0	51,614	0
		A. 計(b+d)	1,130,092		93,247	51,614	143,728
	B. 執行済額		1,128,801		41,633	51,169	141,178
	うち交付金充当額		903,041		33,306	40,935	112,941
	次年度繰越額		0		51,614	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.9%	#DIV/0!	44.6%	99.1%	98.2%
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	グスクゾーン周辺整備工事及びグスクゾーン園路整備工事、工事に伴う磁気探査業務の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
達成状況説明	整備工事(R6-1工区、R6-2工区)及び工事に伴う磁気探査業務(R6-1、R6-2)を完了させた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R7年度)
	グスクゾーンに係る周辺及び園路整備工事の完了	目標	()	()	()	(完了)	()
		実績				完了	
	【参考指標】年間来場者数	目標	()	()	()	()	(2万人)
		実績					
	進捗状況説明	・引き続き関係機関との調整を踏まえ、未整備区間の園路や周辺環境の整備予定。 ・当初設定していたR4成果目標(中間目標)については、周辺環境整備の遅れを踏まえてR7へ変更することとした。今後は整備進捗状況を踏まえて、成果目標年度を検討する必要がある。目標値設定の考え方としては、県内グスクの年間利用者を参考に施設条件などを考慮した結果、供用開始5年間に於いて、本事業により整備した施設の利用者10万人(単年あたり2万人)を目標値としている。今後は、利活用の促進に向けて沖縄県事業施設(沖縄空手会館及びおきなわ工芸の杜等)との連携を図っていく。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(周辺整備) ・事業実施が令和7年度までの計画としていたが、用地購入(物件補償含む)に時間を要したことから、令和10年度に遅れることとなった。今後は供用開始または開放に向けて、周辺整備を早期に取り組む必要がある。 (年間来場者数) ・沖縄県の施設である沖縄空手会館(平成28年度供用開始)とおきなわ工芸の杜(令和4年度供用開始)と連携を図って、目標値達成のため、誘客についての取組が必要となる。	(周辺整備) ・関係機関と調整を図って、早期供用開始に向け周辺整備に取り組む。 (年間来場者数) ・沖縄県主体とした「豊見城城址跡地活用ワーキンググループ」により、イベント開催や情報共有等連携を図って、来場者数の増に繋げる。
今後の取り組み方針		
(周辺整備) 安全対策及び園路整備が完了したことを踏まえ令和7年度から一部開放し、来場者利活用に向けた未整備箇所(屋外トイレ、ガイダンス施設、駐車場等)の検討を推進していく。 (年間来場者数) 当事業と一体的な沖縄県事業(沖縄空手会館及びおきなわ工芸の杜)と連携を図り、文化・歴史・体験等が学べる観光周遊ツアーを企画するなど新たな交流拠点の形成・観光誘致に取り組み、県内外に愛される豊見城グスク整備を実施していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>141,178</td><td>141,178</td><td>112,941</td><td>28,237</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	141,178	141,178	112,941	28,237	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
141,178	141,178	112,941	28,237	0										
<pre> graph LR A[豊見城市 141,178千円] --> B[委託費 3,998千円] A --> C[工事請負費 137,180千円] B --> D["(株)南テクノ 2,600千円"] B --> E["(株)吉永測量設計 1,398千円"] C --> F["(株)巴総業 79,263千円"] C --> G["(株)東信興建 57,917千円"] D --- H["〔豊見城城址跡地磁気探査業務委託(R6-〕"] E --- I["〔豊見城城址跡地磁気探査業務委託(R6-〕"] F --- J["〔豊見城城址跡地整備工事(R6-1工区)〕"] G --- K["〔豊見城城址跡地整備工事(R6-2工区)〕"] </pre>														
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
資金の流 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は、本市指名委員会で選定した業者を指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は、設計業務等積算基準書、工事標準積算基準書などより算定していることから、予算規模は事業内容と見合っていると考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、事業目的の観点から額の確定時において支出等に関する書類により確認、適性であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑤	創業支援強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(6)-(ア)		
担当部課名	企画部 商工観光振興課		事業実施(予定)年度	令和6~令和10年度	沖縄振興基本方針該当箇所	スタートアップの促進		
事業内容	国から認定を受ける創業支援等事業計画において、本市と連携して創業支援事業を実施する事業者に対し、創業支援事業に係る経費の補助を行い、更なる創業者の創出を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,500					
		(b)予算現額	3,500					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	0					
		A.計(b+d)	3,500					
	B.執行済額		3,414					
	うち交付金充当額		2,730					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		97.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
	創業セミナーを毎月開催	目標	(計8回)	()	()	()		
		実績	計25回					
達成状況説明	事業開始当初に想定していたよりも、創業セミナーに対する需要が多く目標値を大幅に超える結果となった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値(年度)	
	創業セミナーの参加者数5名/月以上	目標	()	(5名/月以上)	()	()	()	
		実績		平均10名/月以上				
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	事業開始当初に想定していたよりも、創業セミナーに対する需要が多く目標値を大幅に超える結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・創業セミナーの需要が多く、セミナー開催回数が大幅に増えたが、その要因としては、コロナ禍を経て経済が再始動し始めたことの肌観と、小規模事業者持続化補助金の募集告知が広く知れ渡っていたことが要因として推測される。 ・市内で創業するための土地・空きテナントが不足あるいは価格が高騰しており、本市の支援を受けた創業希望者をいかに市外へ流出させず、市内で困り込むかという問題がある。	・旺盛な需要をこぼさず取り入れるべく、セミナー開催数を増やして対応する。 ・セミナー等の創業支援が行われていることをこれまで以上にHP・SNS・フライヤーなどを活用して広く周知することに努め、情報提供を募ることで、空き土地や空きテナント情報といった、創業希望者が今後必要となるであろう情報が集まりやすい環境づくりを図り、創業希望者の市外流出となる要因を一つでも多く摘み取りたい。
今後の取り組み方針		
・需要に合わせてフレキシブルに創業セミナーを開催することで全体の様子をみつつ、特定分野に特化した創業セミナーの必要性を検討する。 ・次年度以降も引き続き本事業を実施して認知度の向上を図ると共に、関係機関と協議しながら事業内容のブラッシュアップを図ることで、より精度の高い創業支援へヴァージョンアップさせ、当市の地域活性化、産業振興の一助としたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,414</td><td>3,414</td><td>2,730</td><td>684</td><td>0</td></tr> </table> 豊見城市 3,414千円 補助金 3,414千円 株式会社コノ街デザイン 3,414千円 豊見城市創業支援等事業者補助金					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,414	3,414	2,730	684	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,414	3,414	2,730	684	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助要綱に沿った事業執行であるため補助先の選定方法は妥当である。 ○予算規模については、事業者からの見積を参考に、事業の内容に応じて積算しており、適正であった。 ○交付要綱に基づいた支出となっているため、受益者との負担関係は妥当である。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑥	豊崎海浜公園環境整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-(ア)		
担当部課名	経済建設部 公園緑地課	事業実施(予定)年度	令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-1-(1)			
事業内容	豊崎海浜公園における施設環境面を改善し、観光客等の施設利用者の利便性向上を図るため、コイン式シャワー取替工事を実施する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	6,930					
		(b)予算現額	6,930					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	0					
		A. 計(b+d)	6,930					
	B. 執行済額		5,885					
	うち交付金充当額		4,708					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		84.9%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		当初、16基分取替を予定していたが、うち2基については機能強化要件を満たさないため14基の取替を実施した。そのため、1,045千円の不用額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況				
				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	コイン式シャワー取替工事			目 標	(実施)	()	()	()
				実 績	実施			
達成状況説明	当初、男子用8基(内障がい者用1基)、女子用8基箇所(内障がい者用1基)取替を予定していたが、障がい者用については機能強化要件を満たさないため、障がい者用をのぞく14基の取替を実施。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値(年度)
	コイン式シャワー取替工事完了			目 標	()	(完了)	()	()
				実 績		完了		
				目 標	()	()	()	()
				実 績				
	進捗状況説明	工事完了済み しかし、障がい者用2基については機能強化要件を満たさないため、障がい者用をのぞく14基の取替工事完了。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	事前調査不足のため、障がい者用については機能強化要件を満たさなかった。 豊崎海浜公園内においては、新たな施設等ができており、施設環境に変化がみられる。	より良い設備や機材等がないか、情報収集やWebアンケートの結果を取り込む必要がある。 施設環境・来訪者の変化を注視し、より施設利用者の利便性向上を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
指定管理者の意見やWebアンケート結果等を参考として、観光客等の施設利用者の利便性向上を図るための取り組みをしていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
		<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>5,885</td><td>5,885</td><td>4,708</td><td>1,177</td><td>0</td></tr></table>			総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,885	5,885	4,708	1,177	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,885	5,885	4,708	1,177	0										
豊見城市 5,885千円 → 工事請負費 5,885千円 → 有限会社上原設備工業 5,885千円 〔豊崎海浜公園コイン式シャワー取替工事〕														
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○業者選定は、本市指名委員会で選定した業者を指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。 ○予算は、メーカーとの調査、工事事業者見積りなどより算定していることから、予算規模は事業内容と見合っていると考え。 ○費目、使途については、事業目的の観点から額の確定時において支出等に関する書類により確認、適性であった。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	豊見城市									
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1-⑦		豊見城市観光PR事業				新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-3-(2)-(ウ)	
担当部課名	企画部 商工観光課			事業実施(予定)年度	令和4～令和6年度		沖縄振興基本方針該当箇所		多彩かつ質の高い観光の推進	
事業内容	首都圏在住者に対し、身近に豊見城市の雰囲気を感じることのできる物産展と本市の観光・文化についてのPR展等を実施する。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()									
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度			
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	20,649	10,282	2,641					
		(b) 予算現額	20,071	10,282	2,641					
		(c) 増減額(b-a)	▲ 578	0	0					
		(d) 繰越額	0	0	0					
		A. 計(b+d)	20,071	10,282	2,641					
	B. 執行済額		20,065	9,823	2,514					
	うち交付金充当額		15,529	7,859	2,010					
	次年度繰越額		0	0	0					
	執行率(%) (B/A)		100.0%	95.5%	95.2%	#DIV/0!	#DIV/0!			
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。								
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況						
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度			
	首都圏にて物産展及びPR展を行う。			目 標	(3回)	(1回)	(1回)	()		
				実 績	3回	1回	1回			
達成状況説明	OKINAWA祭りIN代々木(東京都R6.5.18～5.19)に豊見城市ブースを出展し、市のPRを行った。									
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)		
	実施場所における市ブースへの来場者数6,000名以上			目 標	()	(17,500人)	(5,500人)	(6,000人)	()	
				実 績		9,109人	5,618人	10,088人		
	【後年度効果発現】 県内 入域観光客数			目 標	()	()	(7,100,000人)	()	()	
				実 績			8,235,400人			
	進捗状況説明	実施会場において集計をした結果、2日間合計(3ブース)で10,088人が、ブースへ来場した。								

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・R6年度は東京都代々木公園で2024年5月18日～5月19日に開催された「OKINAWAまつり2024」に出店をした。 ・本イベントは2日間で約25万人もの来場者が記録され、本市ブースには約1万人が訪れた。 ・R5年度と比較し、民間イベントを間借りすることで予算規模を少なくし、低コストで本市のPRが出来たイベントとなった。 ・市内事業者を1店舗同行させたのだが、その店舗の売り上げも好調であったため、本市のPRが更に出来たと考える。	・出展協力業者の拡充 ・ファミリー向けコンテンツの充実(体験型ブース、ファミリーで楽しむことができる出展内容など) ・会場の装飾物の工夫(市の観光スポットに関心が高まるようなイベント装飾の仕掛けづくりなど)
今後の取り組み方針		
次年度以降も、このような関東圏で集客実績のあるイベントの出店をすることで、低予算で高い効果を出すことの出来る市特産品等の観光PRを行いたい。またそれに伴い、SNS等の媒体で本市の景勝地及び特産品のPR広告等を併せて行うことで「豊見城市」の認知度向上をイベント来場者へ行う。最後に多くの方がイベントを通して、本市での観光を来沖の目的としてもらえるように、引き続き本市のPRを行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,602	2,514	2,010	504	88

豊見城市
2,514千円

委託料
2,384千円

(有)ウエスト沖縄
2,384千円

旅費
130千円

普通旅費

交付対象外経費
88千円

豊見城市観光PR事業運営業務

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 項目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、地方自治法施行令第167条の2第1項第6号等により随意契約しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、事業者からの見積を参考に、仕様の内容に応じて積算しており、適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	発達支援保育事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-(ア)	
担当部課名	こども未来部 保育こども園課	事業実施(予定)年度	令和4～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	子ども・子育て支援の充実	
事業内容	公立保育所・認定こども園への加配保育士の配置と市内法人立認可保育園等へ加配保育士等の人数に応じて補助金を交付する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	35,800	113,850	165,764		
		(b) 予算現額	54,000	105,006	166,266		
		(c) 増減額 (b-a)	18,200	▲ 8,844	502		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計 (b+d)	54,000	105,006	166,266		
	B. 執行済額		46,338	101,209	164,746		
	うち交付金充当額		37,070	80,967	131,796		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		85.8%	96.4%	99.1%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		私立保育施設の加配保育士配置月数に変動があり補助金額が見込みを下回ったこと、公立施設加配保育士の配置人数が見込みを下回ったことにより、減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	加配保育士配置数 私立:91名	目標	(79名)	(69名)	(91名)	()	
		実績	65名	82名	92名		
	加配保育士配置数 公立:18名	目標	()	()	(18名)	()	
		実績			17名		
達成状況説明	・当該事業で交付する補助金は、発達支援保育事業を実施する園における人件費の負担軽減につながっており、私立保育施設の加配保育士配置数については、R5年度に続いて目標人数を達成できた。 ・公立施設については、対象児を預かるために配置が必要であった17人の加配保育士を配置できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	加配保育士の対応への満足度(80%以上)を含め、対象となる児童保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		97%	87%	89%	
	市内対象児に必要な加配保育士の人数に対する実際に配置できた人数(85%以上)	目標	()	(85%)	(85%)	(85%)	()
		実績		86.67%	100%	100%	
	進捗状況説明	・対応への満足度については、令和6年3月に保護者に対してアンケートを実施した結果、57名から回答を得られ、そのうち89%が満足と回答した。 ・市内の対象児(特別な支援が必要な児童)に対する加配保育士の配置割合は、100%であった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(加配保育士の対応への満足度) ・保育士資格等を有している加配保育士を配置している施設と経験が少ない非正規雇用の加配保育士を配置している施設で保護者の満足度に違いがある。 (加配保育士の配置割合) ・特別な支援が必要な児童が年々増加傾向にあることに伴い、加配保育士数も増加してきているが、加配保育士配置に係る人件費の負担が大きい現状である。	(加配保育士の対応への満足度) ・各施設の配置水準を調査し、必要があれば見直しを行う。 (加配保育士の配置割合) ・補助基準額を月額15万円から月額18万円に引き上げる。
今後の取り組み方針		
(加配保育士の対応への満足度) ・経験のある保育士を積極的に配置し、対象児との信頼関係を築けている保育士は前年度からの継続配置するなどの対応をすることで、保護者の不安解消を図り、満足度の向上につなげる。 (加配保育士の配置割合) ・補助基準額を加配保育士等1人あたり月額15万円から月額18万円に引き上げ、発達支援保育事業を実施する施設における人件費の負担を軽減することで、加配保育士の積極的な配置を促し、支援を必要とする子それぞれの保育ニーズに応えられる環境を整備する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>178,031</td><td>164,746</td><td>131,796</td><td>32,950</td><td>13,285</td></tr> </tbody> </table> 報酬 31,243千円 会計年度任用職員 31,243千円 (公立施設加配保育士 報酬) 職員手当等 12,420千円 会計年度任用職員 12,420千円 (公立施設加配保育士 期末・勤勉手当) 共済費 6,292千円 那覇年金事務所 3,893千円 市町村職員共済 公立学校共済 2,399千円 (公立施設加配保育士 共済費) (公立施設加配保育士 共済費) 費用弁償 246千円 会計年度任用職員 246千円 (公立施設加配保育士 交通費) 法人立こども園・保育園 114,545千円 法人立こども園・保育園 114,545千円 (28施設) (豊見城市発達支援保育事業補助金) (交付対象外経費 13,285千円)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	178,031	164,746	131,796	32,950	13,285
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
178,031	164,746	131,796	32,950	13,285										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○豊見城市発達支援保育事業実施要綱に基づき、市内認可園を対象としており、妥当であると考える。 ○予算規模は、過去の実績を基に加配保育士数を積算しており、適正であった。 ○対象児童受入のための人件費のうち1人あたりの上限金額を設定し補助しているため妥当だと考える。 ○使途については精算段階で検査を実施しており、目的を実施するため必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-③	認可外保育施設給食委託事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-(ア)		
担当部課名	こども未来部 保育こども園課	事業実施(予定)年度	令和6～令和8年度		沖縄振興基本方針該当箇所	子ども・子育て支援の充実		
事業内容	認可外保育施設の保育の質向上のため、給食業務に伴う負担軽減を図り、子どもを見る時間を増やすことで、より良い保育の提供を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,921					
		(b)予算現額	10,890					
		(c)増減額(b-a)	▲ 10,031					
		(d)繰越額	0					
		A. 計(b+d)	10,890					
	B. 執行済額		9,562					
	うち交付金充当額		7,649					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		87.8%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		プロポーザルにて選定した業者の単価が当初予定単価より減額となったため、10,031千円減額を行ったが、当初予定より、人数見込数より少なかった等の理由により、1,328千円の不用額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	給食業務の委託		目 標	(実施)	()	()	()	
			実 績	実施				
達成状況説明	認可外保育施設7施設に対する給食業務の委託契約を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値(年度)
	給食内容に関して、認可外保育施設及び保護者の満足度80%以上		目 標	()	(80%以上)	()	()	()
			実 績		67%			
	保育の質に関して、認可外保育施設及び保護者の満足度80%以上		目 標	()	(80%以上)	()	()	()
			実 績		97%			
	進捗状況説明	・給食内容、保育の質の満足度の確認方法として、認可外保育施設と保護者へアンケートを実施した。 ・給食内容のアンケート結果の満足度は、認可外保育施設が57%、保護者が77%で平均67%となり、目標である80%以上を達成することはできなかった。 ・保育の質のアンケート結果の満足度は、認可外保育施設が100%、保護者が94%で平均97%となり、目標である80%以上を達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(給食内容の満足度) 認可外保育施設57%、保護者77%、平均67%となった。12月に給食委託業者が原因となる食中毒が発生したことが主な要因と考えられる。 (保育の質の満足度) 認可外保育施設100%、保護者94%、平均97%となった。給食業務を委託したことによる子どもへの対応時間の増加が主な要因と考えられる。	(給食内容の満足度) 認可外保育施設および保護者からのアンケート結果を委託業者へ情報提供し、満足度の向上を図る。 食中毒発生の原因として、調理マニュアルの遵守不足、管理体制が不十分だったことが要因であると考えられる。 調理員へのマニュアルの再教育、管理体制の見直しを実施し、安心安全な給食提供を行うことで、満足度向上を図る。 (保育の質の満足度) 子どもへの対応時間増加により、認可外保育施設、保護者共に高い満足度となっていることから、改善の余地はないものと考えられる。
今後の取り組み方針		
(認可外保育施設、保護者設の給食内容の満足度) 給食委託業者による再発防止対策を講じてもらい、対策が実施されたかを市でも確認を行い、安心安全な給食提供が行えるよう努める。 (保育の質の満足度) 給食業務を委託したことにより子どもへの対応時間が増加、施設および保護者へのアンケート結果は高い満足度となったことから引き続き維持に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9,562</td><td>9,562</td><td>7,649</td><td>1,913</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,562	9,562	7,649	1,913	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,562	9,562	7,649	1,913	0										
豊見城市 9,562千円 委託料 9,562千円 株式会社なかよし給食センター 1,954千円 有限会社パーソナルフードサービス 7,608千円 給食委託業務 給食委託業務														

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号より随意契約を行い、その後は公募式プロポーザル方式により、業者を選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、給食発注数が入所人数により変動することから見込額が難しいこと、プロポーザル実施にて単価が当初予定より減額したこともあり予算減額をしていることから適切であると考ええる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については、食材料費を施設負担としており、妥当であると考ええる。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、食材料費を除く委託料になっているため、事業目的に即した内容であったと考える。

市町村名	豊見城市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	特別支援教育支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(エ)	
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施 (予定)年度	平成28～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進		
事業内容	小中学校に対し特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を必要とする児童生徒の支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	67,157	74,124	73,250	83,819	108,026
		(b)予算現額	44,977	66,095	60,758	83,819	85,454
		(c)増減額(b-a)	▲ 22,180	▲ 8,029	▲ 12,492	0	▲ 22,572
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	44,977	66,095	60,758	83,819	85,454
	B. 執行済額		41,213	62,046	57,833	56,971	76,447
	うち交付金充当額		32,970	49,636	46,266	45,577	61,157
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		91.6%	93.9%	95.2%	68.0%	89.5%
予算の状況の説明		特別支援教育コーディネーターは年度当初から配置できた。特別教育支援員については最終的に目標人数を達成しているが、欠員で未配置の時期があったため、9,007千円の不用額が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	特別支援教育支援員の配置:36人	目 標	(30人)	(29人)	(33人)	(36人)	
		実 績	29人	30人	29人	36人	
	特別支援教育コーディネーターの派遣による教育相談、指導助言、面談等の実施:1人	目 標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
実 績		1人	1人	1人	1人		
達成状況説明	特別支援教育支援員については、欠員で未配置のところもあったが、最終的には36人任用となった。特別支援教育コーディネーターについては、年度当初より人材確保し配置することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (R1年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	特別支援教育支援員の配置による対応満足度(80%以上)と今後の事業のあり方について保護者アンケートを実施する。	目 標	(80%)	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績	82.6%	80%	73.9%	82%	
	進捗状況説明	特別支援教育支援員の支援を受けている児童生徒151人の保護者にアンケートを実施した結果、50人の保護者より回答があった。特別支援教育支援員の配置により「大変満足している」が36%(18人)、「概ね満足している」が46%(23人)となり、82%(41人)の方が効果を実感いただいている結果となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・支援員配置による満足度が目標を達成できた理由として、配置により児童生徒の成長を感じる保護者が多かったことが挙げられる。 ・特別な支援を必要とする児童生徒の地域小中学校への就学希望が増えており、進学・進級先等について保護者と十分協議する必要がある、今後も支援員の必要性が増してくる。	・支援員配置の満足度は目標値を達成しているため、今後も継続して達成できるように児童生徒の支援事項の共有方法及び対応を検証する。 ・当初計画とおりの支援員が確保できていないため、年度当初より支援員を確保する必要がある。
今後の取り組み方針		
・本事業の更なる充実を図るため、特別支援教育支援員のスキル向上のための研修会を引き続き実施するとともに、年度当初から特別支援教育支援員を配置できるよう求人案内を従前の方法に加え、WEB等を活用した新たな求人方法を取り入れ幅広く採用情報を提供していく事とする。また、人事評価制度と昇給制度を活用する。 ・令和5年度から正規職員として公認心理師を採用しており、令和7年度にさらに1名追加する。また、会計年度任用職員の公認心理師も継続雇用することにより、各校内委員会への関りを強化し、児童生徒への対応について学び、スクールソーシャルワーカー、福祉部局とも連携し支援体制の強化を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費		交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金
79,199		76,447	61,157	15,290
				交付対象外経費
				2,752
豊見城市76,447千円 報酬49,407千円 会計年度任用職員49,407千円 特別支援教育コーディネーター1名 報酬 特別支援教育支援員37名 報酬 職員手当等16,999千円 会計年度任用職員16,999千円 特別支援教育コーディネーター1名 期末・勤勉手当 特別支援教育支援員37名 期末・勤勉手当 共済費9,335千円 那覇年金事務所5,824千円 特別支援教育コーディネーター1名 共済費 特別支援教育支援員37名 共済費 公立学校共済3,283千円 特別支援教育コーディネーター1名 共済費 特別支援教育支援員37名 共済費 市町村職員共済228千円 特別支援教育コーディネーター1名 共済費 特別支援教育支援員37名 共済費 費用弁償706千円 会計年度任用職員706千円 特別支援教育コーディネーター1名 交通費 特別支援教育支援員37名 交通費 交付対象外経費2,752千円				
資金の流 点検・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援教育支援員の採用については、豊見城市で規定している要領(豊見城市会計年度任用職員の任用に関する要領)に基づき面接を行って採用している。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○賃金・報酬額等は豊見城市の規則に基づいた算定額であり適正であった。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-②	学力向上サポート事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(ア)		
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実			
					Ⅲ-3-(1)			
事業内容	小中学校の教員の補助として学力向上推進補助員を配置し、きめ細かい支援を行うことで学力向上を図る。 また、学力到達度調査を実施し、課題のある教科・分野を見だし、指導改善を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	26,579	28,631	34,653	35,139	43,102	
		(b) 予算現額	22,561	25,550	31,920	35,139	37,079	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,018	▲ 3,081	▲ 2,733	0	▲ 6,023	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	22,561	25,550	31,920	35,139	37,079	
	B. 執行済額		22,103	24,439	30,115	28,131	33,121	
	うち交付金充当額		17,682	19,551	24,091	22,504	26,496	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		98.0%	95.7%	94.3%	80.1%	89.3%	
予算の状況の説明		当初計画では学力向上推進補助員を12人雇用予定し採用に至ったが、年度途中で退職者や育休等が出て欠員が生じたことから、欠員分の報酬等において3,958千円の不用額が生じた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	学力向上推進補助員を12人配置する。 小学校:8人 中学校:4人	目 標	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:4人)		
		実 績	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:4人		
	全国標準学力検査の実施 小1～中2:年1回	目 標	()	(1回)	(1回)	(1回)		
		実 績		小1～中2:1回	小1～中2:1回	小1～中2:1回		
	学力検査の実施 中3:年1回	目 標	()	(1回)	(1回)	(1回)		
実 績			1回	1回	1回			
達成 状況 説明	年度途中で退職者3人、育休等1人が出たため、追加の募集を行ったが欠員のままとなった期間があった。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (R1年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 ①小学校: +2.5ポイント以上 ②中学校: +0.0ポイント以上	目 標	(小: +2.8 中: +1.9)	(小: +2.8 中: +0.0)	(小: +2.6 中: +0.0)	(小: +2.5 中: +0.0)	()	
		実 績	小: +2.9 中: -0.7	小: +2.5 中: +0.5	小: +1.7 中: +1.7	小: +2.8 中: +1.8		
	進 捗 状 況 説 明	小学校 小学5、6年生を対象に実施した学力到達度調査において県平均55.6ポイントに対し市平均が58.4ポイントとなり+2.8ポイント市平均が県平均を上回った。 中学校 中学1、2年生を対象に実施した学力到達度調査では、県平均37.5ポイントに対し市平均が39.3ポイントとなり+1.8ポイント市平均が県平均を上回った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	各中学校の状況を確認すると、全ての教科で県平均を上回っている状況である。継続した授業運営の補助が一定程度効果を発揮していると考えられる。	沖縄県学力到達度調査において、中学校の県平均正答率との差は徐々にプラスポイントを向上させているが、小学校の県平均正答率との差が安定していない。これは年度途中の育児休業や退職による補充がうまく切れ目なく行えていなかったことがひとつの要因であると考えられる。継続した授業運営の補助が行えるように、SNSを活用するなど募集の方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・欠員が出ることがわかり次第、速やかに市のホームページや広報誌への掲載、LINEを活用して募集案内を広く周知する。 ・学力向上に関する情報共有を随時行い、学力向上推進補助員のスキルアップを目指し、個々に応じた学習支援を実施する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
34,102	33,121	26,496	6,625	981

豊見城市
33,121千円

報酬
18,296千円

会計年度任用職員
18,296千円

学力向上推進補助員14名 報酬

職員手当等
6,788千円

会計年度任用職員
6,788千円

学力向上推進補助員14名 期末・勤勉手当

共済費
2,609千円

那覇年金事務所
1,365千円

公立学校共済
1,244千円

学力向上推進補助員14名 共済費

費用弁償
108千円

会計年度任用職員
108千円

学力向上推進補助員14名 交通費

委託料
5,320千円

学悠出版(株)
1,136千円

(株)学友館
4,184千円

学力調査委託料
(中学校3年生)

学力調査委託料
(小学生・中学1・2年生)

交付対象外経費
981千円

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学力向上推進補助員の採用については、豊見城市で規定している要領(豊見城市会計年度任用職員の任用に関する要領)に基づき面接を行って採用している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託業者は地方自治法施行令第167条の2第1項第2号により随意契約しており、賃金・報酬額等は豊見城市の規則に基づいた算定額であり適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市								
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	3-③	スクールソーシャルワーカー配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(イ)			
担当部課名	教育部 教育指導課		事業実施 (予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む 学校教育の推進			
	Ⅲ-3-(1)								
事業内容	問題を抱える児童生徒を取り巻く環境(家庭や友人関係等)の改善のためスクールソーシャルワーカーを配置する。								
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)								
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()								
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	6,998	7,812	7,902	8,006	9,144		
		(b)予算現額	6,162	5,855	6,214	8,006	9,330		
		(c)増減額(b-a)	▲836	▲1,957	▲1,688	0	186		
		(d)繰越額	0	0	0	0	0		
		A.計(b+d)	6,162	5,855	6,214	8,006	9,330		
	B.執行済額		6,003	5,527	5,864	5,715	8,523		
	うち交付金充当額		4,802	4,421	4,691	4,572	6,817		
	次年度繰越額		0	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		97.4%	94.4%	94.4%	71.4%	91.4%		
予算の状況の説明		年度当初からスクールソーシャルワーカー3名を通年継続して雇用できた。実績に応じて807千円の不用額が生じたが、予定通り予算を執行できている。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	スクールソーシャルワーカー3人を中学校区ごとに配置し、小学校8校と中学校4校を巡回する。			目 標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
				実 績	3人	3人	3人	3人	
達成 状況 説明	年度当初から3人のスクールソーシャルワーカーを採用する事ができ、市内小中学校に巡回配置する事ができた。								
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)				基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	支援対象ケース改善率:61.4%以上 (改善ケース件数/支援対象ケース件数)× 100			目 標	()	(48.4%)	(51.8%)	(61.4%)	()
				実 績		70.6%	30.4%	20.1%	
	進捗 状況 説明	支援対象件数323件中、問題が改善された件数24件、状況が好転した件数41件となり改善率20.1%で目標未達成となった。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・状況が好転されたケースについても問題改善へとつながらず長引くケースがある事から引き続き支援が必要となる。 ・年々、支援対象件数も増加傾向にあり、令和6年度は前年度より約2倍近くの件数となっている。多種多様なケースへの対応が求められる。	・スクールソーシャルワーカーを継続雇用し、長引くケースへの支援継続を図る。 ・多種多様なケースに対応するため、スクールソーシャルワーカーの質向上に向けた研修などの機会を設ける事を検討する。 ・支援対象件数が増加していることへの対応として、1中学校区1人のスクールソーシャルワーカー配置を検討する。
今後の取り組み方針		
支援対象件数が増加傾向にある事から、スキルアップにつながるような研修会を実施するとともに、多様化するケースへの取り組みとしてスクールソーシャルワーカー連絡会を開催し、情報共有を密に行っていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,951</td><td>8,523</td><td>6,817</td><td>1,706</td><td>428</td></tr> </tbody> </table> 報酬 5,587千円 会計年度任用職員 5,587千円 （スクールソーシャルワーカー3名 報酬） 職員手当等 2,046千円 会計年度任用職員 2,046千円 （スクールソーシャルワーカー3名 期末・勤勉手当） 共済費 808千円 那覇年金事務所 480千円 （スクールソーシャルワーカー3名 共済費） 公立学校共済 328千円 （スクールソーシャルワーカー3名 共済費） 費用弁償 82千円 会計年度任用職員 82千円 （スクールソーシャルワーカー3名 交通費） （交付対象外経費 428千円）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,951	8,523	6,817	1,706	428
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,951	8,523	6,817	1,706	428										
資金の流 点検・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○スクールソーシャルワーカーの採用については、豊見城市で規定している要領（豊見城市会計年度任用職員の任用に関する要領）に基づき面接を行って採用している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○賃金・報酬額等は豊見城市の規則に基づいた算定額であり適正であった。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-④	不登校等対策支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(イ)		
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む 学校教育の推進		
事業内容	教室に入ることのできない生徒に対する別室支援を行うため中学校へ学習支援員を配置するとともに、不登校の児童生徒の居場所として設置している適応指導教室へ学習支援員を配置する。また、不登校対策として小学校に対し登校支援員を配置する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 ■その他(備品購入費)							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	15,112	16,485	16,945	16,775	27,057	
		(b)予算現額	11,394	14,720	12,231	13,300	20,522	
		(c)増減額(b-a)	▲ 3,718	▲ 1,765	▲ 4,714	▲ 3,475	▲ 6,535	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	11,394	14,720	12,231	13,300	20,522	
	B. 執行済額		11,175	13,851	11,568	10,568	18,806	
	うち交付金充当額		8,940	11,080	9,254	8,455	15,044	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		98.1%	94.1%	94.6%	79.5%	91.6%	
予算の状況の説明		学習支援員(適応指導教室)は4月から配置できたが、学習支援員(中学校)は配置が遅れ下半期からのスタートとなった。また、登校支援員においても配置できていない期間があった事から1,716千円不用額が生じた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	学習支援補助員を4人配置する。 適応指導教室:2人 中学校:2人	目 標	(中:1人 適:2人)	(中:1人 適:2人)	(中:1人 適:2人)	(中:2人 適:2人)		
		実 績	中:1人 適:2人	中:0人 適:2人	中:1人 適:2人	中:2人 適:2人		
	登校支援員を小学校8校に1人ずつ配置する。	目 標	(8人)	(8人)	(8人)	(8人)		
		実 績	8人	8人	6人	8人		
	適応指導教室にデジタル教科書を整備する。	目 標	()	()	()	(実施)		
実 績					実施			
達成 状 況 説 明	適応指導教室に配置する学習支援補助員は配置できたが、中学校への配置が遅れてしまった。登校支援員は2校未配置でスタートしたが、年度末までには8校配置できた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	不登校児童生徒復帰率:20%以上 (学校復帰人数/新規不登校者数)×100	目 標	()	(20%以上)	(20%以上)	(20%以上)	()	
		実 績		15.1%	18.1%	12.3%		
進 捗 状 況 説 明	小学校では不登校児童140人に対し3人が登校復帰した。また、中学校では不登校生徒185人に対し37人が登校復帰した。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・不登校児童生徒のケースも多様化しており、一概に午前だけの登校支援では対応できない場合もある。 ・学校へ行けないが学習をしたい児童生徒など、学びのスタイルの多様化が進んできている。 ・不登校児童生徒が年々増加しており、小学校と中学校では特に中学校の割合が多い。学習支援補助員(中学校)の配置遅れや体制に課題があることが復帰率未達成の要因のひとつと考える。	・午後であれば登校できる児童生徒に対しても支援ができるように、登校支援員の体制のあり方を検討する必要がある。 ・小学校の不登校児童の登校復帰割合が中学校と比べてかなり低く、小学校の不登校児童の居場所作りや学習サポートが必要になっている。 ・学習支援補助員(中学校)の早期配置及び人員配置の検討が必要である。
今後の取り組み方針		
不登校対策は初期段階から切れ目なく継続して支援する必要があることから、支援員の継続雇用へとつながるよう学校側と連携し働く環境の充実に努めるとともに、支援員採用に際してはWEB等を活用するなど幅広い層へ働きかけよう取り組む。また、人事評価制度や昇給制度を活用しながら有能な人材を継続して雇用できるよう取り組む。 また、令和5年度から正規職員として公認心理師を採用しており、令和7年度にさらに1名追加する。また、会計年度任用職員の公認心理師も継続雇用することにより、登校支援員のサポート支援も強化していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>19,606</td><td>18,806</td><td>15,044</td><td>3,762</td><td>800</td></tr></table> 豊見城市 18,806千円 報酬 12,211千円 会計年度任用職員 12,211千円 〔学習支援補助員報酬 登校支援員報酬〕 職員手当等 3,890千円 会計年度任用職員 3,890千円 〔学習支援補助員期末・勤勉手当 登校支援員期末・勤勉手当〕 共済費 2,216千円 那覇年金事務所 1,315千円 〔学習支援補助員共済費 登校支援員共済費〕 公立学校共済 541千円 〔学習支援補助員共済費 登校支援員共済費〕 市町村職員共済 360千円 〔学習支援補助員共済費〕 費用弁償 207千円 会計年度任用職員 207千円 〔学習支援補助員交通費 登校支援員交通費〕 備品購入費 282千円 沖縄県教科書供給㈱ 282千円 〔デジタル教科書 (適応指導教室:とよむ教室分)〕 〔交付対象外経費〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	19,606	18,806	15,044	3,762	800
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
19,606	18,806	15,044	3,762	800										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○学習支援補助員や登校支援員の採用については、豊見城市で規定している要領(豊見城市会計年度任用職員の任用に関する要領)に基づき面接を行って採用している。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○賃金・報酬額等は豊見城市の規則に基づいた算定額であり適正であった。										
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	豊見城市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	英語教育推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-(ア)	
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	英語への興味・関心を高め、英語の学力向上に繋げるため、中学校へ外国人英語講師を配置し、小学校へ日本人英語講師を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	26,996	28,096	28,771	28,416	49,803
		(b) 予算現額	25,962	26,663	27,004	27,030	44,289
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,034	▲ 1,433	▲ 1,767	▲ 1,386	▲ 5,514
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	25,962	26,663	27,004	27,030	44,289
	B. 執行済額		24,991	24,128	26,217	24,598	42,481
	うち交付金充当額		19,993	19,302	20,973	19,678	33,984
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.3%	90.5%	97.1%	91.0%	95.9%
予算の状況の説明		小学校への日本人英語講師配置について、未配置となった期間があったため、1,808千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	外国人英語講師(ALT)を市内4中学校に1人ずつ配置する。	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(4人)	
		実績	3人	3人	3人	4人	
	日本人英語講師(JTE)を市内8小学校に配置する。	目標	(8校)	(8校)	(8校)	(8校)	
		実績	8校	8校	8校	8校	
達成状況説明	外国人英語講師については、年度当初より計画どおり4人の配置ができた。 日本人英語講師配置については、計画どおり市内小学校全8校に対し講師を配置する事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	【小学校】英語に対する興味・関心が高まった児童の割合80%以上	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		84.8%	78.7%	78.5%	
	【中学校】沖縄県学力到達度調査(英語)での県平均正答率との差+0.0ポイント以上	目標	()	(+0.0ポイント)	(+0.0ポイント)	(+0.0ポイント)	()
		実績		-1.1ポイント	+1.2ポイント	+0.3ポイント	
	進捗状況説明	小学校でのアンケート調査では、「外国に行ったとき英語を使ってみたい」とする回答が最も多く、英語の授業で児童の英語への関心を高められていることが感じられるが、目標達成に至っていないことから課題が感じられる。 また、中学校では県平均正答率を上回っているが、令和4年度から3年間の実績を比較すると、ポイント差が安定していない。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	小学生 日本人英語講師の配置により英会話を中心としたより実践的な授業展開により児童の英語に対する興味・関心が高まってきているが、高学年になるにつれ学習内容の難易度が高くなるため、英語学習への意欲向上が課題となる。 中学生 中学校学力到達度調査(英語)の正答率は県平均を上回っているが、年々ポイント差が増減しておりまだ安定していないことから、今後も継続した英語力の向上を図る必要がある。	小学生 教科化となった小学生5、6年生以外の学年にも、英語を身近に感じることができるような取り組みが必要。 中学生 英検等の各種検定について、生徒が積極的に受検できるように、英語に対する自信をつけさせる取り組みが必要と考える。
今後の取り組み方針		
小学生 ・各校の英語専科の先生とも協力し、3、4年生にも発話中心の授業を展開していく。 ・令和6年度は全校での国際交流は実施出来なかったが、今後全校で交流が出来るように調整していく。 中学生 ・ALTによる2次面接対策にも力を入れ、生徒に自信をつけさせるとともに、英検等の各種英語検定の補助事業を行い、積極的な受検を促す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>44,368</td><td>42,481</td><td>33,984</td><td>8,497</td><td>1,887</td></tr> </tbody> </table> 報酬 26,251千円 会計年度任用職員 26,251千円 外国人英語講師4名 報酬 日本人英語講師8名 報酬 職員手当等 10,112千円 会計年度任用職員 10,112千円 外国人英語講師4名 期末・勤勉手当 日本人英語講師8名 期末・勤勉手当 共済費 5,700千円 那覇年金事務所 3,577千円 外国人英語講師4名 共済費 日本人英語講師8名 共済費 公立学校共済 2,123千円 外国人英語講師4名 交通費 日本人英語講師8名 交通費 費用弁償 418千円 会計年度任用職員 418千円 外国人英語講師4名 交通費 日本人英語講師8名 交通費 交付対象外経費 1,887千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	44,368	42,481	33,984	8,497	1,887
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
44,368	42,481	33,984	8,497	1,887										
資金の 使途の 流れ 点検 評価 項目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○外国人英語講師や日本人英語講師の採用については、豊見城市で規定している要領(豊見城市会計年度任用職員の任用に関する要領)に基づき面接を行って採用している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○賃金・報酬額等は豊見城市の規則に基づいた算定額であり適正であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認し適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	豊見城市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥	ICT教育推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-(イ)	
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進		
事業内容	分かりやすい授業により教育の質の向上を図り児童生徒の学力向上、情報活用能力の向上を図るため学校にICT機器を整備するとともにICT機器を活用した授業を支援するために情報教育補助員を派遣する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 ■その他(備品購入費)						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a)当初予算額	46,959	28,413	11,665	73,970	78,323
		(b)予算現額	32,039	24,652	28,976	60,989	51,826
		(c)増減額(b-a)	▲14,920	▲3,761	17,311	▲12,981	▲26,497
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	32,039	24,652	28,976	60,989	51,826
	B.執行済額		28,321	20,399	26,896	60,491	51,307
	うち交付金充当額		22,657	16,319	21,516	48,393	41,044
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		88.4%	82.7%	92.8%	99.2%	99.0%
予算の状況の説明		教師用タブレットPC・電子黒板等のICT機器の入札に伴う執行残、デジタル教科書購入を要する教科の変更及び金額の確定等により26,497千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	情報教育指導補助員派遣:4人	目標	(11人)	(5人)	(4人)	(4人)	
		実績	8人	5人	4人	4人	
	電子黒板整備:77台	目標	(8台)	(5台)	(63台)	(77台)	
		実績	8台	5台	63台	77台	
	教師用タブレットPC端末整備:7台	目標	()	(12台)	(23台)	(7台)	
		実績		12台	23台	7台	
	デジタル教科書整備(小学校室):8校	目標	()	()	(8校)	(8校)	
		実績			8校	8校	
デジタル教科書整備(中学校):4校	目標	()	()	(1校)	(4校)		
	実績			1校	4校		
達成状況説明	情報教育補助員については、4人体制で小中学校への支援を行った。 電子黒板:77台、教師用タブレットPC端末整備:7台について整備を行った。(指名競争入札) デジタル教科書整備:小学校8校・新設中学校4校について整備を行った。(随意契約)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	教員にアンケート調査を実施し、情報教育指導補助員の配置により、ICT機器の習熟度が上がったと答えた割合(80%以上)を含め、本事業のあり方について検討する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		88.26%	90.03%	87.78%	
	児童生徒にアンケート調査を実施し、ICTを活用した授業が分かりやすかったと答えた割合(80%以上)を含め、本事業のあり方について検討する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		92.18%	92.80%	92.97%	
	進捗状況説明	教員へのアンケート結果 教員に対するアンケートを実施した結果、自身のICT機器の習熟度が上がったと答えた教員は87.78%となり目標達成となった。 児童生徒へのアンケート結果 児童生徒に対するアンケート結果は小学校で918人にアンケート調査を実施した結果、95.42%の児童がICTを活用した授業が分かりやすかったと答えた。中学校では、349人中、86.53%の生徒がICTを活用した授業が分かりやすかったと答えており目標達成となった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化） R6年度は教員のICT機器の習熟度はあがったと回答した教員は87.78%と目標値である80%は超えている。 小中学校のアンケート結果で、ICT機器を活用した授業がわかりやすかったと回答した児童生徒は、92.97%と前年度に比べ上がっている。これは教員がICT機器を利用した授業を積極的に行っている結果だと考えられる。 GIGAスクール構想から5年が経過していることもあり、児童生徒端末に不具合が多くなっておりサポートが必要な事例が増えている。	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点） 今後は、教員のスキルの維持・向上及びサポートを引き続き行うほか、児童生徒に対しても操作支援を行うことで、学習用端末の基本操作の習熟を図り、今後はそれを基にしたインターネット検索等で正確性、信頼性のある情報を見極めて利活用を高めていく必要がある。
	今後の取り組み方針 学習用端末や電子黒板等の充実を図るとともに、教員へのICTを利用した授業では不可欠な内容であるITリテラシー向上に向けた研修会等を実施する。また、児童生徒に対しても、今後も学習用端末の操作支援を行い、ITリテラシーの理解を深め、正確性、信頼性のある情報を活用し、情報社会に対応できる人材を育成を図る。 令和2年度に実施した、児童生徒端末の整備から5年が経過したため、令和7年度より順次端末の更新を行うことになる。既存端末の環境とは異なるため教育の情報化の妨げとならないようにサポートを図っていく。	

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
52,235	51,307	41,044	10,263	928

```

            graph LR
                A[豊見城市  
51,307千円] --> B[報酬  
7,673千円]
                A --> C[職員手当等  
3,407千円]
                A --> D[共済費  
1,716千円]
                A --> E[費用弁償  
155千円]
                A --> F[備品購入費  
38,356千円]
                F --> G["(株)オフィスとよみ  
33,330千円"]
                F --> H["(株)オフィスとよみ  
1,941千円"]
                F --> I["沖縄県教科書供給株式会社  
1,956千円"]
                F --> J["沖縄県教科書供給株式会社  
1,129千円"]
                K[交付対象外経費  
928千円]
                style K fill:none,stroke:none
            
```

資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○情報教育指導補助員の採用については、豊見城市で規定している要領(豊見城市会計年度任用職員の任用に関する要領)に基づき面接を行って採用しており、備品購入は指名競争入札により適正に選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○備品購入先は指名競争入札により選定しており、賃金・報酬額等は豊見城市の規則に基づいた算定額であり適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成のために必要であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑦	児童生徒等派遣費補助事業(部活分)			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(ウ)		
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進		
						Ⅲ-3-(1)		
事業内容	県外及び離島で開催される部活動における大会等及び選抜選手による合同練習に参加する児童生徒に対し、派遣費の補助を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,520	2,520	2,520	5,076	5,216	
		(b)予算現額	0	324	298	4,155	1,446	
		(c)増減額(b-a)	▲2,520	▲2,196	▲2,222	▲921	▲3,770	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A.計(b+d)	0	324	298	4,155	1,446	
	B.執行済額		0	324	297	2,741	1,446	
	うち交付金充当額		0	259	237	2,193	1,156	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		0.0%	100.0%	99.7%	66.0%	100.0%	
	予算の状況の説明		派遣見込人数の見直しを行い、3,770千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	児童生徒派遣費等の一部を補助			目標 (派遣費の一部補助)	(派遣費の一部補助)	(派遣費の一部補助)	(派遣費の一部補助)	
				実績 派遣費の一部補助	派遣費の一部補助	派遣費の一部補助	派遣費の一部補助	
達成状況説明	13件の競技大会にかかる派遣費を補助する事ができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	対象児童生徒の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。			目標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
				実績	100%	100%	99%	
進捗状況説明	13件の競技大会にかかる派遣費補助を行い、派遣対象生徒に対し貴重な経験を得る機会に役立てることができた。対象児童生徒の視野が広がったかについて、派遣対象児童にアンケートを実施したところ、「技術面に関する課題が見つかった」「精神面において、学ぶものがあった」等に対し「はい」と99%の回答を得ることができた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新型コロナウイルスの影響による行動制限等が無くなったことにより、様々な部活動において大会が以前のように開催されるようになった。そのことにより、よりレベルの高い大会から得られる経験の蓄積が、児童生徒達の競技レベルアップに繋がっている。	離島・県外共に、大会派遣後のアンケートをみると、派遣された児童生徒のほとんどが、課題の発見、気づき・学びを得られ、自己の成長を実感しており、適切に事業が実行できていると考えられる。 また、指導者についてもレベルの高い大会に引率する経験から指導力の向上を図ることができると考える。 以上のことから、引き続き現行の方法で派遣費補助事業を実施し、児童生徒達及び指導者の成長に繋がるよう取り組んでいく。
今後の取り組み方針		
令和5年度より、児童生徒の派遣大会参加の費用負担を軽減し、派遣機会を拡大するため、県外だけではなく離島で開催される大会も対象に含め、引率する外部指導員の渡航運賃の補助も行っている。令和7年度も引き続き児童生徒・外部指導者への派遣費補助を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,551</td><td>1,446</td><td>1,156</td><td>290</td><td>1,105</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,551	1,446	1,156	290	1,105
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,551	1,446	1,156	290	1,105										
豊見城市 1,446千円 補助金 1,446千円 補助対象者:13件 1,446千円 派遣費補助金に係る経費 (航空運賃の1／2) 交付対象外経費 1,105千円														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助要綱に沿った事業執行であるため補助先の選定方法は妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○派遣は予選大会の結果によるため派遣人数の見込みが難しく、派遣が予想される大会分の予算計上は必要であるため、予算規模は適正であったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助要綱に基づいた支出となっているため、受益者との負担関係は妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助要綱に沿った支出であり費目・使途は適正である。											

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑧	児童生徒等派遣費補助事業(部活外)			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(ウ)		
担当部課名	教育部 生涯学習振興課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	個性を伸ばし、自立に向けた資 質・能力を伸ばす教育の推進			
事業内容	市内在住の児童生徒及びその指導者が、県内離島及び県外等で開催される運動競技及び文化関係大会に参加する際の派遣費用の一部を補助する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	5,400	5,400	5,400	6,264	6,264	
		(b)予算現額	1,440	3,240	6,649	6,264	7,740	
		(c)増減額(b-a)	▲ 3,960	▲ 2,160	1,249	0	1,476	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	1,440	3,240	6,649	6,264	7,740	
	B. 執行済額		372	2,028	4,754	5,021	7,108	
	うち交付金充当額		297	1,622	3,803	4,017	5,685	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		25.8%	62.6%	71.5%	80.2%	91.8%	
予算の状況の説明		団体競技の申請数の増加に伴い予算を増額したが、申請辞退や実績報告書の提出により交付確定金額が減額となり632千円の不用額となった。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	児童生徒派遣費補助費の一部(航空運賃の80%)を補助			目 標 (派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	
				実 績 派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	
達成 状 況 説 明		昨年度に引き続き市広報等で周知を図ることで、児童生徒派遣費補助事業の認知度がかなり浸透してきており、補助額の増加となる派遣費補助事業を行うことが出来た。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	補助対象者の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒へアンケートにより、本事業のあり方を検証する。			目 標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
				実 績	99.61%	100%	98%	
	進 捗 状 況 説 明		・補助対象者(児童生徒・引率者)にアンケートを実施したところ、98%の補助対象者数が県外大会を通して、個人・チームの改善点を把握し、技術力はもちろんのこと、精神的にも成長できたとの回答を得ることが出来た。 (アンケートの1例) ・県外の選手は、あいさつが大きく、試合への姿勢も前向きで参考になる部分が沢山あった。県外大会に出場し学習した技術や大会に臨む姿勢を、学校生活・家に持ち帰り生かしていきたい。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	団体競技の申請数が多く、前年度より97名の補助対象者数の拡大に繋がったことで、本市の多くの児童生徒が全国レベルの選手と試合することができ、児童生徒の体力向上、競技力向上、精神力向上につながった。	県外大会派遣後のアンケートから、派遣された児童生徒の全員が、課題の発見や自己の成長を実感しており、適切な事業の執行ができていることから、引き続き現行の方法で事業を継続していく。
今後の取り組み方針		
引き続きホームページ等による派遣費補助事業の情報発信を行う。また、前年度より約97名の補助対象者数の増加により、多くの児童生徒が心身共に成長することができたとアンケートから確認できたため引き続き事業を継続していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>13,695</td><td>7,108</td><td>5,685</td><td>1,423</td><td>6,587</td></tr> </table> 豊見城市 7,108千円 補助金 7,108千円 補助対象者353人 7,108千円 派遣費補助金に係る経費 (航空運賃の1／2) 交付対象外経費 6,587千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	13,695	7,108	5,685	1,423	6,587
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
13,695	7,108	5,685	1,423	6,587										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助(支出先)は交付要綱に沿って行っており、選定方法は適正である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○派遣は予選大会の結果によるため派遣人数の見込みが難しく、派遣が予想される大会分の予算計上は必要であるため、予算規模は適正であったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○交付金での対象は、航空運賃1/2であり、それ以外については、市負担、保護者負担となっているため、受益者との負担関係は妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助は交付要綱に沿って行っており、費目・使途は適正である。											

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑨	青少年国際交流事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-(ア)		
担当部課名	教育部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進			
事業内容	青少年リーダーとして国際的視野を広めさせ、国際化時代に対応し得る青少年の育成を図るため、市内在住の中学生をハワイ州へ派遣する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額			8,857	14,136	14,136	
		(b)予算現額			777	13,698	12,901	
		(c)増減額(b-a)			▲ 8,080	▲ 438	▲ 1,235	
		(d)繰越額			0	0	0	
		A. 計(b+d)			777	13,698	12,901	
	B. 執行済額				761	13,553	12,901	
	うち交付金充当額				609	10,841	10,320	
	次年度繰越額				0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	97.9%	98.9%	100.0%	
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	市内中学生14名をハワイ州へ派遣			目 標	(20名)	(14名)	(14名)	
				実 績	15名	14名	14名	
	報告会の開催(1回)			目 標	(1回)	(1回)	(1回)	
			実 績	1回	1回	1回		
達成状況説明	・豊見城の文化、歴史、観光について、事前研修の講習に取り入れることで、国際交流を行う上で重要な自分の地域についての理解を深めるきっかけができた。 ・毎週2時間、ALT講師による英会話講習やプレゼン練習を充実させたことで、団員による現地での自己紹介やサンキュースピーチ、英語を用いたプレゼン(沖縄の特色について)を堂々と行うことができた。 ・帰国後は、報告会を開催し、生徒自身が保護者をはじめとした関係者の前で研修内容を報告することにより、リーダーとして向上心や積極性をアピールできる機会を設けることができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	派遣後、団員アンケートを実施し「将来、国際関係の仕事をしたいまは国際科に進学したい」と回答した割合(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する。			目 標	(80%)	(80%)	(80%)	()
				実 績	67%	79%	100%	
	進捗状況説明	・R6年度は、成果目標の80%に対し100%と達成できており、成果を得られたと考える。 ・海外派遣に参加すると、自らの地域(沖縄県・豊見城市)の文化、歴史、産業等に対する理解が十分でないことを自覚し、帰国後、海外での経験や報告会等を通して自らの地域を国際的な視点で知ろうという意識が高まる傾向にある。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・事業に参加した生徒やその親族が報告会に参加するなど交流事業の有効性を発信することにより、国際交流事業に興味・関心がある生徒が増加している。 ・上記の一方で、実際に海外に行くと、自らの地域(沖縄県・豊見城市)の文化、歴史、産業等に対する理解が十分でないことを自覚し、帰国後、海外での経験や報告会等を通して自らの地域を国際的な視点で知ろうという意識が高まる様子が見られる。また、交流事業へ参加した生徒が、将来的にその経験やスキルを地域に還元できるような道筋を作っていくことが課題となっている。	・国際交流においてコミュニケーション能力を高めるために語学(英語)能力も1つの重要な要素ではあるが、それと同時に地域の文化、歴史、産業等について学び、自らのアイデンティティを確立していくことが重要な課題である。派遣団員の選考において地域に関する内容を取り入れる、海外派遣の事前研修において課題に取り組む等の工夫が必要である。
今後の取り組み方針		
・派遣団員選考試験に、英語試験(リスニング・筆記)及び作文「国際交流を通して私の目指す地域貢献活動」等を取り入れ、語学だけではなく、地域について考え交流事業の経験が将来的に地域振興に活かせるような選考テーマを採用できるか検討する。 ・団員派遣前の事前研修において、地域の文化、歴史、産業等を学ぶことにより団員自身のアイデンティティ確立を支えるプログラムを検討する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13,897</td><td>12,901</td><td>10,320</td><td>2,581</td><td>996</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	13,897	12,901	10,320	2,581	996
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
13,897	12,901	10,320	2,581	996										
豊見城市 12,901千円 報償費 56千円 旅費 1,990千円 需用費 292千円 委託料 10,563千円 団員選考委員 事前研修講師謝礼金 56千円 引率職員旅費(3人) 沖縄ツーリスト(株) 1,990千円 消耗品等 事業報告書 (印刷製本費) 292千円 (有)アイエイシー エンタープライズ 50千円 〔 選考試験問題作成に係る委託業務 〕 沖縄ツーリスト(株) 10,513千円 〔 現地交流事業に係る委託業務 〕 交付対象外経費 996千円 〔 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、豊見城市契約規則に規定する随意契約又は指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業者からの見積を参考に、仕様の内容に応じて積算しており、適正であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○参加料及び委託料等の受益者負担割合は適していたと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○使途については精算段階で検査を実施しており、目的を実施するため必要なものであったと考える。											

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑩	お仕事体験事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-(ウ)		
担当部課名	企画部 商工観光課		事業実施(予定)年度	平成30～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	若年者の活躍促進		
事業内容	豊見城市内の小中学生等に様々な職業を疑似体験させる事により、早期からの就労に対する意識付けや、将来の職業観を育むことを目的とする。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額			2,000	2,000	1,825	
		(b)予算現額			2,000	2,000	1,857	
		(c)増減額(b-a)			0	0	32	
		(d)繰越額			0	0	0	
		A.計(b+d)			2,000	2,000	1,857	
	B.執行済額				1,869	1,845	1,857	
	うち交付金充当額				1,495	1,476	1,485	
	次年度繰越額				0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	93.5%	92.3%	100.0%	
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	年1回の事業実施			目標	() (年1回)	(年1回)	(年1回)	
				実績	年1回	年1回	年1回	
達成状況説明	令和6年11月24日(日)に豊見城市民体育館の屋内に26・屋外に4つにブースを設置し事業を実施。時間帯を5つのブロック(各80分)に分け、各ブロック総入替制にて運営。各ブロック定員150名の予約優先としたところ、各ブロックとも予約は満員の150名×5ブロック=750名。当日の来場は606名となったが、児童・生徒1人あたり平均4.6回の体験をしてもらうことができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	就業意識が向上したか(85%以上)を含め、イベントに参加した児童生徒へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。			目標	() (80%)	(80%)	(85%)	()
				実績	99%	93.5%	95%	
	進捗状況説明	本イベントの満足度等を計るため、参加児童・生徒、保護者、出展事業者の其々にアンケートを実施。児童・生徒へ「働くことに興味が湧きましたか?」と質問したところ、95%が「興味が湧いた」との回答があり、様々な仕事を垣間見、体験することで就業意識の向上に繋がったものとする。【他、各対象アンケート抜粋】・保護者向け「参加させてよかったですか?」はい:99%・出展事業者向け「参加してよかったですか?」はい:100%						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	1日を5ブロック(各80分)に分け、各ブロックとも150名定員とすることで全体の混雑緩和には繋がったが、人気の体験は先着順ということもあって、結局は各ブロックの受付20分程前から長蛇の列となってしまった。	人気の体験はブース拡張・担当者増員などを調整・依頼し、体験できる人数上限を増やすなどの工夫を講じることで、児童・生徒の満足度向上に努めたい。
今後の取り組み方針		
アンケートの結果を踏まえて事業者の選定入替を図りつつ、今回出展いただいたOISTに加え、冲高専のような高度な研究職に繋がる分野の参加も引き続き募り、更なる将来の展望及び就業意識向上の期待ができる取り組みとしたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,000</td><td>1,857</td><td>1,485</td><td>372</td><td>143</td></tr> </table> 豊見城市 1,857千円 委託料 1,857千円 株式会社ヒマラヤ・株式会社アカネクリエーション共同体 1,857千円 豊見城市お仕事体験事業委託業務 交付対象外経費 143千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,000	1,857	1,485	372	143
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,000	1,857	1,485	372	143										
資金の流 れ、 点 検 評 価 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業者からの見積りを参考に積算を行っており、適正なものである。 ○費目・使途については、実績報告等をもとに確認しており、目的に即し、必要なものであると判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	豊見城市						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	デジタル博物館事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(4)－(ア)	
担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	令和2～令和11年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及	
事業内容	地域の歴史・文化に育まれた地域知的資産情報(文化財、博物館資料、写真資料、口承文芸資料等)に常時アクセスできる環境を整え各種webページで公開し、市民・学校・観光客等に豊見城市の魅力を発信するとともに地域文化の振興に寄与する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a)当初予算額	31,994	47,185	68,920	40,191	42,159
		(b)予算現額	31,994	47,185	67,960	39,248	42,159
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲960	▲943	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	31,994	47,185	67,960	39,248	42,159
	B.執行済額		31,657	46,834	67,858	38,962	40,838
	うち交付金充当額		25,325	37,467	54,286	31,169	32,670
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.9%	99.3%	99.8%	99.3%	96.9%
予算の状況の説明		適正な積算と計画の結果、事業計画通りに執行を行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	R2・R3 収蔵アナログ写真資料のデジタル化作業 R4～ 歴史資料の電子化	目標	(100,000点)	(80,000点)	(3,201点)	(652点)	
		実績	100,000点	111,438点	12,225点	7,345点	
	R2・R3 収蔵品写真撮影 R4～ 電子情報連携発信	目標	(4,050点)	(1,025件)	(1,025件)	(1,025件)	
		実績	4,050点	1,025件	3,025件	6,276件	
	地域資料収集作業	目標	(8地域)	(5地域)	(2地域)	(4地域)	
		実績	8地域	5地域	2地域	4地域	
	R3 民話資料データ化 R4～ 電子地図系コンテンツ作成	目標	(650話)	(4件)	(4件)	(4件)	
		実績	658話	7件	5件	5件	
達成状況説明	歴史資料の電子化は、戦後の文書資料のテキストデータ化等を約7000点の電子化を実施した。電子情報連携発信は、文化財標柱のQRコード設置10件、普及発信企画巡回展を3回、普及映像資料を6点、データベース公開を6,257件実施し、電子情報連携発信を6,276件完了した。地域資料収集作業は、地域の自治会と協働の上で収集作業にあたり、自治会や個人提供の写真と情報を集約した。電子地図系コンテンツは集落復元1件、史跡復元1件、沖縄戦VRコンテンツ内3件の計5件完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	R2・R3 地域資料収集作業の完了 R4 地域資料共有報告書発行	目標	()	(5種類)	(2種類)	(4種類)	()
		実績		5種類	2種類	4種類	
	R3 ホームページの公開 R4 webサイトアクセス数	目標	()	(60,000回/年)	(66,000回/年)	(70,400回/年)	()
		実績		64,137回/年	68,300回/年	74,650回/年	
	進捗状況説明	地域資料共有報告書については、地域と協議の上実行し、計画通り4種類の発刊を達成した。 ホームページの公開については、ポータルサイト「とみぐすくデジタルアーカイブ」に新規資料を追加し、個別のコンテンツサイトも継続してそれぞれ稼働し着実にアクセス数が推移し、目標値を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化） ・ホームページ公開、webサイトアクセス数については、前年の目標値を上回った。要因として、新規資料の公開や普及発信展示での広報活動が考えられる。 ・普及発信展示は、開催日だけでなく会場や会場で同時開催されるイベントによって来場者の世代層が異なる。 ・デジタルマップについては、現在ローカル環境で公開を行っている。普及発信展示で体験できるようにしているが、来場者数に限りがある。 ・市史編集事業で収集した戦後資料が膨大にあるが、デジタル化が行われていない資料がある。	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点） ・ホームページ、webサイトの利用者を増やすために、引き続き新規資料の追加と広報活動を行う。 ・普及発信展示では幅広い年齢層に対応できるよう、展示方法を多様化させる。 ・資料によって得られる効果を最大限に発揮させるために、web公開にむけた準備を行う。
	今後の取り組み方針 ・ホームページの公開コンテンツを充実させ、効果的な公開・広報活動を行っていく。 ・適切な調査方法や対象地域拡大など柔軟な対応で市民協働の事業進捗に努める。 ・対面イベントを増加させ、体験の質の高い発信活動を実施していく。 ・デジタルマップのweb公開に向けて諸条件や課題を整理する。 ・戦後資料のデジタル化と整理を行い、webサイト公開に向けて準備を行う。	

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
	総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費	
			交付金充当額	市町村負担金
	40,919	40,838	32,670	8,168
豊見城市 40,838千円	報酬 9,449千円	会計年度任用職員 9,449千円	〔学芸員4名 報酬〕	
	職員手当等 3,197千円	会計年度任用職員 3,197千円	〔学芸員4名 職員手当等〕	
	共済費 1,750千円	那覇年金事務所 1,004千円	〔学芸員4名 共済費〕	
		沖縄県市町村職員共済組合 746千円	〔学芸員4名 共済費〕	
	費用弁償 222千円	会計年度任用職員 222千円	〔学芸員4名 費用弁償〕	
	委託料 26,220千円	株式会社Nansei 10,670千円	〔資料のデジタル化、地域資料調査等に係る委託業務〕	
		株式会社パスコ沖縄支店 15,550千円	〔デジタルマップ・文化財3D化に係る業務委託〕	
	〔交付対象外経費 81千円〕			
資金の流 れ、費 用・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、公募型プロポーザル方式によって適切に選定している。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、適切に予算を設定している。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算の費目・用途については、事業に必要最低限に設定し、執行している。委託業務完了段階で検査を行っており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	豊見城市								
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	5-①	サッカーキャンプ誘致推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-(ア)			
担当部課名	教育部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成31～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化				
					Ⅲ-1-(1)				
事業内容	サッカーキャンプ受入に必要な、芝生の維持管理委託を行う事で、プロサッカーチーム使用の芝生管理整備を維持し、サッカーキャンプ誘致に向けた施設の受入体制を構築することで継続的なサッカーキャンプ誘致を実現する。								
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)								
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()								
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	14,740	14,740	14,190	14,300	14,300		
		(b)予算現額	14,740	14,740	15,136	14,300	14,300		
		(c)増減額(b-a)	0	0	946	0	0		
		(d)繰越額	0	0	0	0	0		
		A.計(b+d)	14,740	14,740	15,136	14,300	14,300		
	B.執行済額		14,740	14,740	15,135	14,300	14,300		
	うち交付金充当額		11,792	11,792	12,108	11,440	11,440		
	次年度繰越額		0	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。							
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	サッカーキャンプ受入に必要な芝生の維持管理	目 標	(芝生の維持管理及び草種変更)		(芝生の維持管理及び草種変更)	(芝生の維持管理)	(芝生の維持管理)		
		実 績	芝生の維持管理及び草種変更実施		芝生の維持管理及び草種変更実施	芝生の維持管理	芝生の維持管理		
達成状況説明	サッカーキャンプの受入れに必要な芝生の維持管理を通常のサッカー利用と併せて年間を通して実施した。令和元年度から継続して受け入れているチームは、芝生の状態及び備品整備を称賛しており、継続利用の実現に寄与している。プロチームへの誘致活動及び環境整備のための要望調査について、本市施設にてキャンプを継続して実施しているチームにキャンプ環境に対する要望を確認し、キャンプに必要な環境を整え、継続した実施に繋がった。県内自治体の情報収集については、担当者会議にて各自治体の取組みを確認し、キャンプ時に市のガイドブックを観光向けに配布して市のPRを行った。								
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	サッカーキャンプ誘致件数:2件/年			目 標	()	(2件)	(2件)	(2件)	()
				実 績		1件	1件	2件	
	進捗状況説明	サッカーキャンプの受入れに必要な芝生の維持管理を実施し、今年で6年連続となるJ2の「水戸ホーリーホック」1件のプロサッカーチームを令和7年1月14日から25日にかけて受入を行い、2件目について、台湾の女子チームを受け入れ予定であったが、キャンセルとなり急遽、県内チーム(FC琉球)のキャンプを1月25日から2月1日まで受け入れた。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（キャンプ受入の定着化） ・今後キャンプ受入実施の実現及び、継続的なクラブチームとの受入関係の構築のために市民との交流等、より地域に密着した関係の構築が課題となっている。 （新規クラブチームのキャンプ誘致） ・新規クラブチームを誘致し、継続的な利用の実現が課題である。	（キャンプ受入の定着化） ・今後キャンプ受入実施の実現及び継続的なクラブチームとの受入関係の構築のために市民との交流や合宿受入の際の周知を図り機運を高めるとともに、受入チームの要望等を実現し、継続的な受け入れに繋げる。 （新規クラブチームのキャンプ誘致） ・施設のPRを行い、新規クラブチームのキャンプ誘致に繋げる。
	今後の取り組み方針	
	・持続可能なサッカーキャンプ受入に向けて、受入可能な芝生の維持管理を行える、専門的な知識と技術を持つ業者を選定するとともに、サッカーキャンプ受入の際に市内スポーツ少年団とクラブチームとの交流を検討する。 ・受入クラブチーム情報を市HPで積極的に発信し、市民の受入機運を高め、継続的な受け入れ体制に繋げる。 ・夏場のオフシーズンの利用についても、リーグキャンプの受入実績をPRし、合宿等の受け入れに繋げる。 ・キャンプ期間前に施設のPRを行い、新規クラブチームのキャンプ誘致に繋げる。 ・シャワー設備や会議室等の整備が必要である。	

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,300	14,300	11,440	2,860	0

豊見城市
14,300千円

委託料
14,300千円

株式会社東洋グリーン沖縄営業所
14,300千円

サッカーキャンプ等誘致推進事業委託料

資金の流れ、費目・使途の点検評価

評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○芝生の維持管理という特殊な作業に対して専門的な知識と技術を必要とすることから地方自治法施行令167条の2の1項第2号より随意契約にて実施した。 ○予算規模については、事業者からの見積を参考に、仕様の内容に応じて積算しており、適正であった。 ○委託費の費目、使途については検査を実施し、合格を受けていることから事業目的に必要なものであったと判断した。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-①	豊見城市総合交通戦略推進等支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(12)-(エ)		
担当部課名	都市計画部 都市計画課	事業実施 (予定)年度	令和5~令和9年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	シームレスな交通体系の整備	
事業内容	協議会と連携して本市の特性に即した交通網を確立することで、公共交通不便地域における公共交通の利便性向上を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	11,352	11,038				
		(b)予算現額	8,984	8,259				
		(c)増減額(b-a)	▲2,368	▲2,779				
		(d)繰越額	0	0				
		A.計(b+d)	8,984	8,259				
	B.執行済額		8,981	8,259				
	うち交付金充当額		7,184	6,606				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	ラストワンマイル交通における交通手段の導入検討の実施	目 標	(実施)	()	()	()		
		実 績	実施					
	モビリティマネジメント、交通マネジメント施策の実施	目 標	(2回)	()	()	()		
		実 績	2回					
	協議会等の開催支援	目 標	(4回)	()	()	()		
実 績		4回						
達成状況説明	・豊見城市地域公共交通協議会2回開催、地域公共交通リ・デザイン推進部会2回開催した。 ・市内小学校(座安小学校、とよみ小学校)での公共交通利用促進に向けた学習の開催を実施した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)
	市内一周線バスの利用者数 前年度比1%増		目 標	()	(1% 増)	(1% 増)	()	()
			実 績		10.6% 増	22.6% 増		
	進捗状況説明	令和6年度市内一周バスの利用者目標値81,925人に対して、令和6年度は、100,512名と目標を上回った。 前年度比1%増の成果目標に対して、令和6年度は22.6%増となりR6年度成果目標(指標)を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・新型コロナウイルス感染症の影響により利用者総数・乗客数が減少していたが、コロナ前の令和元年度実績(80,311人)を超えるまでに回復している。 ・普通運賃が160円から190円に値上げし、運転手不足や燃料費の高騰などの問題もある。	・将来的な自動運転の置き換えを見据えたルートを検証し、交通事業者や関係機関の意見を踏まえてたルート再編を提案し、利用者の増加に取り組む。
今後の取り組み方針		
・公共交通ネットワークの形成に向けた取組の推進(ドライブレコーダー調査を行い、利用者の季節変動を把握する。) ・ラストワンマイルにおける交通手段の導入検討の推進(タクシークーポンに代わる移動支援システムとして、デマンド交通の導入可能性について検討する。) ・公共交通の利用促進に向けた取組の推進(公共施設やコンビニエンスストア等と連携したバス待ちスペースの設置)		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>8,259</td><td>8,259</td><td>6,606</td><td>1,653</td><td>0</td></tr> </table> 豊見城市 8,259千円 委託料 7,447千円 (株)中央建設コンサルタント 7,447千円 豊見城市総合交通戦略推進等支援業務 事務費 812千円 需要費、役務費					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,259	8,259	6,606	1,653	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,259	8,259	6,606	1,653	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号により随意契約しており、価格と技術力を総合的に評価して落札者を決定する総合評価方式で選定しているため、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、事業者からの見積りを参考に、仕様の内容に応じて積算しており適切であった。 ○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-②	新たな公共交通システム導入検討調査事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(12)-(エ)		
担当部課名	都市計画部 都市計画課		事業実施 (予定)年度	令和6～令和9年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	シームレスな交通体系の整備		
事業内容	西海岸地域の交通渋滞解消のため、新たな公共交通システム(自走式ロープウェイ)の導入に向けた検討調査を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	29,425					
		(b)予算現額	28,347					
		(c)増減額(b-a)	▲ 1,078					
		(d)繰越額	0					
		A. 計(b+d)	28,347					
	B. 執行済額		28,347					
	うち交付金充当額		22,677					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		事業計画通りに執行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	検討調査の実施		目 標	(実施)	()	()	()	
			実 績	実施				
	達成 状況 説明	検討調査として、概略ルート及び駅位置の検討、概算事業費の算出、費用対効果の概略検討等を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 (年度)
			目 標	()	(完了)	()	()	()
	検討調査の完了		実 績		完了			
	進 捗 状 況 説 明	検討調査として、概略ルート及び駅位置の検討、概算事業費の算出、費用対効果の概略検討等を完了した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本事業は、庁内における概略的な検討にとどめており、今後、事業推進に向けて、関係機関協議や市民のニーズ把握、市民に対する情報発信等が課題	・国、県、那覇市など関係機関と協議を行う。(占用、都決、環境・景観など) ・アンケートによる移動需要調査など、ニーズを把握するとともに、広く市民へPRを行う。
今後の取り組み方針		
・新たな公共交通システムの導入に向けては、市民のニーズを的確に把握するとともに、関係機関との協議を進めることで実現に向けて段階的な取組を推進する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>28,347</td><td>28,347</td><td>22,677</td><td>5,670</td><td>0</td></tr> </table> 豊見城市 28,347千円 委託料 28,347千円 (株)長大 沖縄支店 28,347千円 新たな公共交通システム導入検討調査事業					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	28,347	28,347	22,677	5,670	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
28,347	28,347	22,677	5,670	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、当該事業者以外の第三者に履行させることが業務の性質上不可なため一般競争入札によることが不利益なことで、複数の者より見積書を徴する「競争見積方式による随意契約」が困難なため、単数の者から見積書を徴する特命随意契約(1社随契)を行った。 ○予算規模については、事業者からの見積りを参考に、仕様の内容に応じて積算しており適切であった。 ○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		豊見城市							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		6-③ 豊見城市優良母牛導入支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所					
担当部課名		経済建設部 農林水産課		第4章-3-(7)-(ア)					
		事業実施(予定)年度		平成27～令和8年度					
				沖縄振興基本方針 該当箇所					
				おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化					
				Ⅲ-1-(6)					
事業内容		優良母牛の導入を促進し、畜産農家の資産基盤の確立及び経営の安定、農業振興を行う。							
効果発現年度		■当年度 □後年度(年度)							
実施方法		□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		予算 の 状 況	(a)当初予算額	6,400					8,250
			(b)予算現額	5,809					6,762
			(c)増減額(b-a)	▲591					▲1,488
			(d)繰越額	0					0
			A.計(b+d)	5,809					6,762
		B.執行済額		5,809				4,592	
		うち交付金充当額		4,646				3,673	
		次年度繰越額		0				0	
		執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	67.9%	
予算の状況の説明		セリ市場での平均価格が減少傾向にあり、優良母牛を予定以上に安く落れたため、2,170千円の不用額が生じた。							
活動目標(指標)及び達成状況		R6活動目標(指標)		達成状況					
				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
		優良母牛導入に対する補助		目 標 (補助)	()	()	()		
				実 績 補助					
達成状況説明		牛のセリ価格が減少傾向にある中、家畜セリ上場頭数の情報共有化及び県内外での購入を行うことによりスムーズに対応することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況		R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値(年度)
		導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合(110%)		目 標 ()	(110%)	()	()	()	
				実 績		100%			
		進捗状況説明		・今年度は導入年の為、導入牛からの仔牛が生まれていないため、市場の価格(100%)となっている。 ・令和6年度において合計14頭導入することができた。 ・8月沖縄県(南部セリ市場)1頭 ・11月鳥取県(中央セリ市場)1頭 ・12月沖縄県(南部セリ市場)2頭 ・1月沖縄県(南部セリ市場)1頭 鳥取県(中央セリ市場)1頭 鹿児島県(種子島セリ市場)3頭 ・2月沖縄県(南部セリ市場)3頭 鹿児島県(肝付セリ市場)2頭					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	導入(購入)月が年度の後半に集中しているため、適切なタイミングでの購入を外部機関(JAや改良協会)と情報共有しながら進めていく必要がある。 ただし、セリでの購入のため、毎年再現性のあるものではないことも留意する。	家畜市場と連携し、牛の価格が安くなる傾向のある月や、優良血統が市場に出やすい時期を和牛組合で共有し、導入していく。
今後の取り組み方針		
市、JA、改良協会等関係機関で、血統情報や市場に優良母牛が出やすい時期等を共有し、購入のタイミングを図り優良母牛和牛の導入を推進していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>4,592</td><td>4,592</td><td>3,673</td><td>919</td><td>0</td></tr> </table> 豊見城市 4,592千円 → 補助金 4,592千円 → 豊見城市和牛組合 4,592千円 〔 豊見城市優良母牛導入支援事業補助金 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,592	4,592	3,673	919	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,592	4,592	3,673	919	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助要綱に沿った事業執行であるため補助先の選定方法は妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○セリ価格が減少傾向にあり、補助額の見込みが難しいが、予算計上は必要であるため、予算規模は適正であったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助要綱に基づいた支出となっているため、受益者との負担関係は妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。											